

○松田芳昭・野地潤家編

「文集 野崎アサエ先生に学びて」

(昭和48・7・25、野崎アサエ先生ご退官記念文集刊行会刊、A5判二三〇ページ、非売品)

○野地潤家先生編

「高宮広雄先生に学びて」

(昭和49・5・20、文化評論出版刊、A5判一六〇ページ、非売品)

右にあげた二冊の文集が、「大村はま先生に学びて」(清水文雄・野地潤家先生編、昭和41・12・20、広島大学教育学部国語教育研究室刊)に続いて編まりました。

野崎アサエ先生は、昭和九年三月、広島文理科大学国語学国文学科をご卒業の後、鹿児島県立第二高等学校教諭兼鹿児島女子師範学校教諭となられ、以来、鹿児島師範学校助教授、広島女子高等師範学校教授、広島大学教授をご歴任になり、昭和四十八年三月、停年のため広島大学を退官されるまで、国語教育者としての道を歩み続けてこられました。

高宮広雄先生は、大正十二年三月、沖繩県師範学校本科第一部をご卒業の後、登野城尋常高等小学校教導を振り出しに、小学校長、沖繩民政府文教部員、八重山民政府文教部長

琉球大学教育学部助教授をご歴任になり、昭和三十四年九月二十日に急逝されるまで、沖繩国語教育にうちこみ、その発展に力を尽くしてこられました。

このお二人の先生の教え子のかたがたから寄せられた一編一編には、お二人が教育者・国語教育者としていかに卓越したかたであったかが、印象深く語られております。野地潤家先生は、「文集野崎アサエ先生に学びて」の、あとがきで、つぎのように述べておられます。

「戦前・戦後を通じて、野崎アサエ先生の国語教育の実践は、わが中等国語教育の一つの典型をなしてきたといつてよい。その意味ではこの『文集』はまた、野崎アサエ先生の国語教育個体史でもあり、野崎国語教室に学

んだ人々による国語学習個体史でもあって、感動をもって迫りくる貴重な報告にあふれている。」

このことは、「高宮広雄先生に学びて」においても同様で、お二人の先生の生きかた、実践・研究のありかたは、わたくしたちに多くの示唆と指針とを与えてやみません。

以上、豊かで感銘深い文集が編まれたことをご紹介いたしました。が、事務局では、できれば、会員の皆様に直接手にとってお読みいただきたいと思っております。ご希望の方には実費でお分けいたしますので、左記要領でお申し込みください。

(足立茂美)